



大野ジョーと  
行く!

古代山城

大野城跡

大野城市の文化財 第46集 2015

大野城市・大野城跡  
PRキャラクター  
大野ジョー



## 大野城跡はなぜつくられたの？

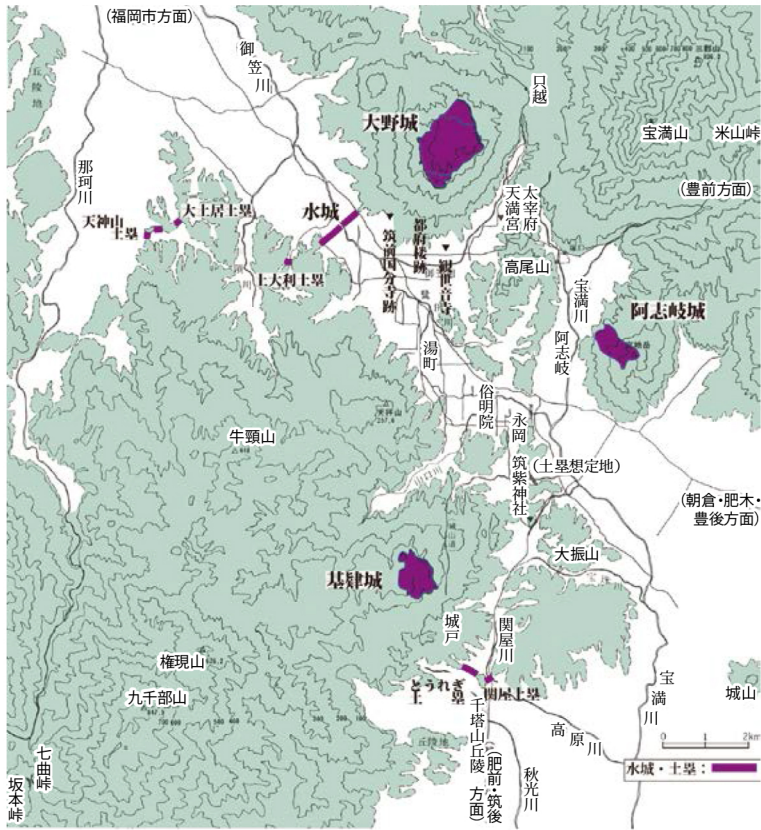
今からおよそ1400年前。朝鮮半島は、高句麗・百済・新羅の三つの国に分かれていました。三国は半島の統一を目指し争っていましたが、これに加え中国を統一した唐が高句麗を攻め、戦いは激しさを増します。

三国の中で新羅は唐と手を結び、高句麗・百済を攻めるようになります。百済は660年に王都泗沘が落城し、王が捕らえられます。倭国（当時の日本）は、百済と友好的な関係にあったため、救援の軍を送りますが、663年におきた白村江の戦いで大敗します。

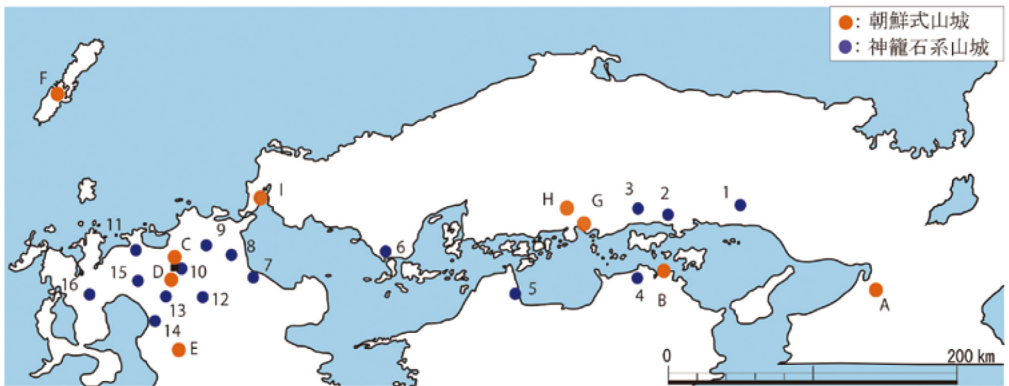
戦いに敗れた倭国は、唐・新羅の来襲を恐れ、国内の守りを固めていきます。まず、664年に対馬や吉岐・筑紫国にのろし台や兵士を配置し、水城を造ります。さらに、665年には百済の亡命貴族の指導の下に大野城・基肄城を造ります。さらに九州北部や瀬戸内海沿岸にも山城を造り、当時都があった奈良までの守りを固めたのです。



7世紀の東アジア



大野城と関連遺跡



《朝鮮式山城》

- A 高安城
- B 屋嶋城
- C 大野城
- D 基肄城
- E 鞠智城
- F 金田城
- G (茨城)
- H (常城)
- I (長門城)

《神籠石系山城》

- 1 城山城
- 2 大廻小廻
- 3 鬼ノ城
- 4 城山
- 5 永納山城
- 6 石城山城
- 7 唐原山城
- 8 御所ヶ谷神籠石
- 9 鹿毛馬神籠石
- 10 阿志岐城
- 11 雷山神籠石
- 12 杷木神籠石
- 13 高山神籠石
- 14 女山神籠石
- 15 帯隈山神籠石
- 16 おつぼ山神籠石

\* (山城名) : 所在地不明の朝鮮式山城

古代山城の分布



● 焼米が見つかるよ！

## 尾花礎石群

尾花礎石群は、太宰府口城門を入れて右側に上がり、途中、見晴らしのいい土塁の上を通っていくと礎石群の看板があり、その奥にあります。

狭い山の尾根を平坦に整形し、地形をうまく利用して、礎石建物が10棟建てられています。建物はいずれも3×5間と同じ大きさです。

この尾花礎石群の周りからは、とても不思議なものが見つかります。それは、礎石群の周りから黒く炭化した焼米が見つかることです。このため、ここは焼米ヶ原と呼ばれています。これは、礎石建物に何が納められていたのかを推測させる手がかりになり、とても大切なものです。



● ふしぎ！

## 水がなくならない鏡池

戦いのためにつくられた大野城では、たてこもる時に必要な水を得る場所がいくつも見つかっていません。

鏡池は、増長天礎石群のすぐ近くにありますが、山の斜面に土が盛りられ、円形の土手が作られています。大きなすり鉢状になっており、水面の広さはおよそ5〜7mあります。深さは5mほどあるとも言われていますが、最近はいじぶ土がたまっていくようです。雨乞いのために鏡を投げ入れたとの伝説があり、名前の由来になっています。

どんな日照りでも水がなくなることはない鏡池。標高が300mくらいある場所なのに、水がたまっているのは、何かしかながあるのでしょうか。



## こころが正門！ 太宰府口城門

太宰府口城門は、大野城跡の南側にあります。発掘調査が行われ、2回建てかえられていることが分かりました。

初めは、地面を掘って柱を立て込む掘立柱式の城門でしたが、礎石の上に柱を据える礎石式に建て変わり、門の幅も狭くしました。今、現地で見えるのは最後の段階の門の姿で、2階建ての楼門と考えられています。門の幅は約5mで、大野城跡の中では最も大きな門です。

また、発掘調査では最初の掘立柱段階の門の柱が残っていません。年輪で年代を判定する方法で調べてみると、648年以降に木が切られたことが分かりました。大野城の築造年代（665年）に近く、興味深い資料です。



## 倉がずらり！ 増長天礎石群

増長天礎石群は、土塁のすぐ横にあります。4棟の倉が、2段に分かれ、軒をそろえて建っています。どの倉も同じ3間×5間（柱の間を数えます）の大きさの建物で、面積は約66㎡と小学校の教室とほぼ同じ広さです。

このうちの3棟は、礎石の周りに掘立柱が巡っていましたが、建て替えられて礎石のみに変わることが明らかになっています。

増長天は、仏教を守護する四天王（毘沙門天・広目天・持国天・増長天）のうちの一人です。大野城には、奈良時代に四王院が置かれますが、そこで祀られていた四天王にまつわると考えられています。



## 大野城の水門！ 屯水

屯水は、大野城跡で今見ることがができる唯一の水門です。昭和47年に大野城跡を襲った水害の後、九州歴史資料館が全山を踏査した時に見つかりました。

屯水石垣の中にあり、水門の水口部は幅50cm、高さ40cmで、とても大きな石でしっかりと組まれています。水門の底石は岩盤にのっており、谷の底から水が出ています。また、底石は50〜80cmごとに、10〜20cmの段差があり、低い階段状になっています。

大野城内では、北石垣城門の近くでもこれに似た水門が見つかっていますが、他では見つかりません。百間石垣では、大きな石のすきまから水が流れる工夫をするなど、水の影響で石垣が壊れない工夫を凝らしています。



## いにしえを今に伝える！ 毘沙門堂

毘沙門堂は、大野城跡の最高所である大城山山頂のすぐ近くにあります。

ここでは、正月3日の早朝から「毘沙門詣り」が行われます。毘沙門詣りは、近隣から参拜のために登って来た人が、お堂の前に置かれたお賽銭を借りて帰り、その翌年、前の年に借りたお賽銭の倍の額を返し、また新しくお賽銭を借りて帰ることで、このお詣りを繰り返すことで、1年間お金に不自由しないと言われています。このお詣りは、江戸時代の終わり頃に始まったとされ、宇美町の民俗文化財に指定されています。

毘沙門は仏教の四天王に由来します。奈良時代に建てられた、四王院がこの近くにあったとも考えられています。



## 大野城最大の守り！ 百間石垣と宇美口城門

宇美町から四王寺山におかう林道を上がっていくと、右側に大きな石垣があります。これが、大野城跡最大の百間石垣です。今は、林道によって分断されていますが、林道の反対側にも石垣が伸びており、長さは150m以上あります。

石垣は、いくつかの谷と尾根をまたぐように築かれ、山肌を削り、岩盤にもたせかけるようにさまざまな大きさの石を積んでいます。また、石材の向きを変えたり、奥行き長い石を部分的に使うなど、石積み工夫がされていました。

石垣の下を流れる四王寺川から門の礎石が見つかり、林道のあたりに城門があったと考えられています。3つ見つっており、掘立柱式から礎石式に建てかえられたようです。



## 大きいジョー！ 大石垣

大石垣は、大野城跡の中で百間石垣に次いで大きな石垣で、高さは6mほどあります。全長は、鏡山猛さんの書いた『大宰府都城の研究』に64mあったとされており、大規模な石垣であったことが分かります。

昭和48年、大石垣は集中豪雨によって一部の石垣が壊れてしまいました。壊れた箇所は昭和50年に復元しましたが、平成15年に大野城跡を襲った大規模な豪雨によって土石流が発生し、石垣の大部分が流されてしまいました。

一時は復旧も危ぶまれましたが、平成17～19年の3年にわたって大宰府市により復旧工事が行われました。大野城跡は何度も修理を行い、守り伝えられてきたのです。

